



# 田島小だより

No. 3

<教育目標> 「心身ともに健康で、確かな学力を持ち、  
人間性豊かな児童の育成」

- やさしく思いやりのある子 (徳)
- くふうして学習に取り組む子 (知)
- からだと心をきたえる子 (体)



## 「従来どおり(の計画)は、後退である」!!

この言葉は、私の元同僚の先生が行事等を計画する際によく言っていた言葉です。  
では、後退しないためにはどのようにするのか。

- 1 状況の変化を的確に把握する。
- 2 前回実施の反省をもとに計画する。



が考えられます。  
これらをもとに、今年のPTA奉仕作業は実施方法を変更し、計画していただきました。(環境福祉委員の方々には、事後承諾となり申し訳ありませんでした。)

「1」として、**PTA会員数の減少**により、春と秋に分けて行うことが難しくなっているという状況があります。

「2」では、地区割では、戸数に偏りがあり、**分担の変更**が反省にあげられていました。

これを受け作成していただいた計画が「地区割ではなく、学年別に分担し、年2回の参加をお願いします」です。このことにより、1回の参加人数が多くなるため、作業時間を1時間半程度から45分程度に短縮し実施する計画となりました。

<昨年度の奉仕作業より>

また、恒例の運動会では、反省をもとに午前中での開催とさせていただきます。加えて子供たちに運動会の楽しさをより味わわせるために「綱引き」を復活させました。カー杯綱を引く子供たちの姿を楽しみにしててください。



しかし、上記のように全てにおいて変更することが良いわけではなく、従来どおりに行うことが大切なこともあります。運動会のように、コロナ禍にあっては、従来どおりのことを行うことさえ、難しいこともあります。

変更するか否か、その変更した計画が適切か否かについては、その活動の「**ねらいの達成**」を基準におきたいと考えています。

子供たちの学びの姿を、子供たちの満足した表情を想像し、教育活動を計画していきたいと考えます。しかしながら、学校でできる教育活動には限界があります。精選の基準は「ねらいの達成」。ここでは本校の教育目標の達成に向けた取組となるよう精選し、諸活動の充実に努めたいと考えます。

## 6月の行事予定

3 (月) よい歯の教室 (3・4年)	17 (月) Tタイム 運動委員会発表
4 (火) よい歯の教室 (1・2年) 駒止湿原散策 (4年) ※ 4年生弁当持参	18 (火) よい歯の教室 (5・6年) ふれあい教室 (3・4年)
5 (水) Tタイム 保健委員会発表 尿検査	19 (水) Tタイム 学力向上 クラブ活動
6 (木) つどいの広場 (1年) 駒止湿原散策 予備日 (4年) ※ 4年生弁当持参	20 (木) キッズシアター (3～6年) 鑑賞教室 (1・2年)
7 (金) 生き物を探そう (2年) ※ 2年生弁当持参	21 (金) 租税教室 (6年)
10 (月) Tタイム 給食委員会発表	24 (月) 職員会議 B時程
11 (火) 第1回校内マラソン記録会	25 (火) 授業参観 A時程 家庭教育学級 PTA役員会
12 (水) Tタイム(1～5年)学力向上タイム 6年生 4校時限	26 (水) Tタイム 全校集会 クラブ活動
13 (木) 修学旅行 ～14日	27 (木) 教育評価週間 ～28・7/2・4



### 「お知らせコーナー」より

マラソン大会がなくなり、非常に残念です。大会の場合、大会に向けた練習やメンタル、競争心など、今後の成長に必要なことが経験できます。

ご意見、ありがとうございます。秋のマラソンについては、同様の意見を持たれた保護者の方が多いと思います。ここでは、以下の2点について校長として示させていただきます。

#### 1 ねらいの達成

学校だより(本号)でも記しましたが、学校の教育活動を進めるにあたり「ねらいの達成」、教育目標の達成を目指します。従来のマラソン記録会でも教育目標の達成に向けた取組としていましたが、「体」に加え、「徳」のねらいの指導を行うことを意図して計画しました。記録会をコロナ禍でできなかった異学年での活動とし、上級生と下級生がともに活動する中で思いやりや憧れをもたせることを意図しました。そのようなことは、別の機会に設けてはどうかとの意見もあるかと思いますが、学校がやらなければならない内容が多くなってきており、より**効率的にねらいの達成を目指す教育活動**が求められています。

#### 2 運動の特性を味わわせる観点から

運動には以下の3つの特性があるといわれます。

- ・構造的特性・・・その運動がうまくできるためにより効果的な手足など体の動かし方
- ・効果的特性・・・その運動をしたことによって身に付く効果
- ・機能的特性・・・その運動をすることで味わうことのできる楽しさ  
(克服型・競争型・達成型・模倣変身型)



マラソンにもそれぞれの特性が含まれ、どれを重視するかで指導が変わります。今回の校内マラソン記録会を2回行う計画は、他者との競争ではなく、自己の目標を達成することをねらいとしています。また、保護者の方より「マラソンに向けた取組が一時的なものとなっているのではないか。」とのご意見をいただき、春と秋に記録会を設け、その間の朝マラソンなどに意欲的に取り組ませることで身体的な効果もあげたいとも考えています。しかし、他者と競争する楽しみがあることも事実です。その機会として学校教育ではなく社会教育の1つである「びわのかげ陸上大会」などへの参加で味わわせることができると考えます。

このように今まで学校教育で行ってきた多くのことのうち、社会教育でできることは移行することも出てくると思います。そのため、スポーツ少年団活動やPTA活動など、地域・保護者の方が中心となる社会教育が非常に重要になってきます。

本年度の計画の意図は以上です。実施後、次年度の計画に活かしていきたいと考えていますので、全児童の健やかな成長に向け忌憚のないご意見よろしくお願い致します。